

土木工学・建築学分野のビジョン (2014年5月)

我が国の土木工学・建築学は、人と自然を調和させつつ、安全・安心で豊かな社会を実現することを目標とし、自然と共生する国土・都市づくり、人々が安心して暮らせる建築・社会基盤の整備などに努めてきた。しかし、東日本大震災は、土木工学・建築学に大きな課題をつきつけた。

日本列島が地震の活動期に入り、地球の気候が変動し、エネルギー供給の構造が変化し、高齢化が進み人口が減少するなかで、持続可能で安全な社会を実現するためには、土木工学・建築学が、これまでの前提条件を見直し、科学・技術を一層向上させていくことが喫緊の課題である。

このような状況に鑑み、土木工学・建築学分野では、最終目標に「持続可能で豊かな社会」の実現をおき、「安全・安心な社会」、「インフラ健全化社会」、「健康・文化向上社会」、「環境共生社会」、「低炭素・循環型社会」、「国際貢献」を重点目標に掲げる。さらに、土木工学・建築学の分野では、地球規模の環境・防災から居住空間の環境・防災まで広い範囲の対応が期待されており、高度で多様な人材の育成が望まれている。

これらの目標を実現するためには、次の6つの課題に取り組むことが重要である。

- 1) 災害要因となる自然現象の解明につとめ、防災・減災機能を強化し、安全・安心な社会を築く。
- 2) 社会基盤の老朽化対策をはじめ、国土・都市・地域環境の保全を可能にする、維持管理・環境マネジメント技術を構築する。
- 3) 人口が減少し高齢化が進むなかで、健やかで心豊かに生きるための住宅・社会基盤づくりに取り組む。
- 4) 地球規模での環境の保全をめざし、自然と共生する国土・都市づくりに努める。
- 5) 我が国のエネルギー供給の構造が変化するなかで、国際的需給状況を踏まえたエネルギー・資源の安定的な利用をめざす。
- 6) 日本の土木工学・建築学が世界の安全・安心に寄与できるように、国際的視野をそなえた高度で多様な人材の育成を進めるとともに、学術の国際交流の促進に尽力する。

土木工学・建築学委員会に関わる夢ロードマップは本分野別委員会の依田照彦幹事、学際連携分科会米田雅子委員長らが中心となり、関連する学会の協力を得て纏められた。